

# 島根県益田市農業委員会 西川 友史 会長

島根県益田市農業委員会の西川 友史 会長に、益田市における農地バンクと農業委員会が連携した農地利用の最適化の推進活動についてお話を伺いました。

## ●益田市農業委員会の状況

農業委員16人、農地利用最適化推進委員24名の合計40名で活動しています。

令和2年7月の改選により5名の女性農業委員が就任し、県内で初めて農業委員に占める女性の割合が30%以上となりました。

女性農業委員の視点から、農業委員会だよりに料理レシピを掲載する取組を始めており、広報活動以外にも今後、活動を展開します。



## ●農地中間管理機構との連携による農地集積の推進

市内を7ブロックに分けて、ブロックごとに、農業委員2～4名、推進委員3～5名を設置しています。ベテランの農業委員をリーダーとしてブロックごとの活動を推進しています。

総会には推進委員も出席して、許認可業務だけでなく、農地集積などについても活発な意見交換がされています。

また、総会の前後では、農業委員、推進委員、農地バンク（農地中間管理機構）の農地集積相談員が農地のマッチングについて情報交換を行うなど、積極的な活動が行われています。

## ●利用権設定終期一覧表の活用した推進活動

農業委員会では、この先1年間の農地の「利用権設定終期一覧表」を農業委員、推進委員、農地集積相談員に配布しています。

委員が把握している農地所有者の意向を農地集積相談員と共有し、農地バンクへの集積を推進しています。



活発な意見が交わされるブロック会議

益田市農業を次世代に繋げるため、農業委員、農地利用最適化推進委員の熱意が地域の積極的な取り組みに繋がるよう、益々のご活躍を期待しています！

# 山口県山陽小野田市農業委員会 田尾 光一 会長

山口県山陽小野田市農業委員会の田尾 光一 会長に、同市郡（こおり）・川東（かわひがし）地区で圃場整備事業の推進を通じた農地の利用調整活動についてお話を伺いました。

## ●田尾会長の活動

田尾さんは、JR西日本を退職後、郡・川東地区で、稲作のかたわら、ほくほくとした食感で甘みの強い「寝太郎かぼちゃ」を栽培する農家である一方、令和2年7月から山陽小野田市農業委員会会長に就任されました。

田尾さんは地域のリーダーとして、長年圃場整備の推進に尽力され、令和2年5月に設置された圃場整備事業推進委員会の事務局長として活動されています。

田尾会長



## ●強いリーダーシップで圃場整備事業の実現

山陽小野田市厚狭地区にある郡・川東地区は、狭小な農地や湿田、未整備の水路など、耕作条件面で不利な状況が続いていました。

田尾さんは、このままでは担い手への農地の集積が困難と考え、平成20年度に行った圃場整備の導入に関する意向調査を足がかりに、関係機関との勉強会や地域の会合等で話し合いを進めていき、圃場整備事業に関する農地所有者の賛同を得ることができました。

その後も、行政への強い働きかけなど地道な活動を重ね、平成31年度には地区の農業者と行政機関が参加する圃場整備準備委員会の会合を開催するに至りました。

## ●人・農地プランの実質化を推進

圃場整備実施に係るアンケート調査で、地域の実情が把握できたので、事業展開とともに地域の将来像が明確なものとなりました。

また、地域のイベントでのPRや圃場整備の概要をまとめた「かわら版」を回覧板へ盛り込むことなど周知活動にも取り組まれており、田尾さんの「楽しい農業・農村にする」との思いが、農家の方以外の人にも浸透し、地域一体となった草刈りや水路の管理等の地域を守る行動に結びついています。

田尾さんの熱意が地域の積極的な取り組みに繋がるよう、益々のご活躍を期待しています！



かわら版

# 山口県岩国市農業委員会 梅川 仁樹 会長

山口県岩国市農業委員会 梅川 仁樹 会長に、同市錦町向峠（むかたお）地区における新規就農者の確保の取組についてお話を伺いました。

## ●梅川会長の活動

梅川さんは、向峠地区で就農後、35年にわたって地域特産である本わさび栽培に取り組む一方、平成16年から農業委員、平成28年から農業委員会長に就任するとともに、山口県農業士協会の会長として新規就農者の確保に取り組んでいます。

本わさび生産では、超促成栽培技術によるわさび農家の所得向上を図るとともに、新規就農者に対して農地はもちろんのこと、住居の斡旋も積極的に行うことで、定住につながるよう取り組んでいます。



梅川会長

## ●地域の担い手確保に向け、法人設立から営農まで一体的に支援

加工用わさびの需要が近年増加する中、機械化が困難であり栽培期間の長いわさびを生産する担い手の高齢化・後継者不足が課題となっています。

向峠地区でも同様の悩みを抱えていたところ、地元の山口FGが設立した（株）バンカーズファームからわさび栽培による参入について相談があったため、梅川さんが地区内の農地の確保するとともに日頃の農業委員会活動で収集した空き家情報を活用し、住居の確保も行う等、営農開始に向け支援を行いました。

わさび栽培については、梅川さんが長年の経験で培ったわさびの土耕栽培による超促成栽培の指導も行うことで一年を通じた収益の確保を目指しています。

このバンカーズファームの取り組み以外にも、3年間で6名の就農を実現させ、次世代を担う若手農業者を積極的に支援しています。

## ●地域の活性化は地域内の情報収集から

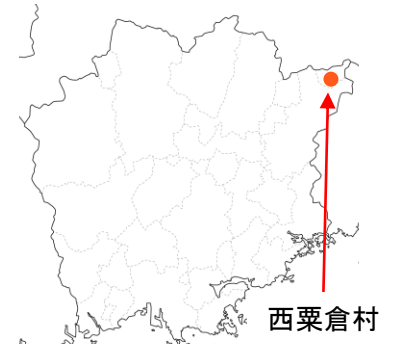
梅川さんは「地域の活性化は農地の確保だけでなく、就農者が地域に住むことにより実現する」との思いから、まずは地域内の情報収集を図るため、農業委員・農地利用最適化推進委員や農業者と地域の巡回を行っています。

この「現場主義」の熱意が地域の積極的な取り組みにつながっています。益々のご活躍を期待しています！

# 農地ナビ（農地情報公開システム）を活用して農地バンクを通じたマッチングを実現 （岡山県西栗倉村）

## 地域の状況

- 岡山県の北東部にある西栗倉村の経営耕地面積は126haと村の総面積の3%に満たず、経営規模、販売額ともに小規模な経営体が中心となっている。
- 近年は農業従事者の減少及び高齢化、農地の分散錯雑等が農地の確保、有効利用を図る上での課題となっている。
- 農地については一筆の面積が小さい、圃場整備が実施されていない、等の条件が悪い農地が多く、引き受け手が見つかりにくく、流動化が進まない。



## 取組の内容

- 農業委員が農地パトロールにより一筆毎の耕作状況を把握し、農業委員会事務局において農地ナビ（農地情報公開システム）の台帳及び地図データへ結果の登録・整理を実施。  
農地ナビには農地所有者の氏名、年齢、耕作状況のほか、農地の利用意向も登録することにより地域の農地情報の一元的な把握と見える化を実現。
- 中山間地域等直接支払制度次期対策（R2～R6）の話し合いと並行し、人・農地プランの実質化に向けての話し合いを実施。  
話し合いにはシステムから出力した地図を提供（写真）。
- 離農する農家の所在した全ての農地を農地ナビで確認し、それぞれの農地ごとに周辺の担い手に引き受けを働きかけた結果、村内で初の農地バンクを活用した地域の担い手への集積を実現。  
鳥獣害被害の大きい農地は、担い手に受け渡す際に村の補助事業を活用し、防護柵を設置することで耕作条件を改善。

## 成果

- これまでに所有者が手放す意向を示した0.6haの農地を農地バンクを通じて集積。
- 農地の利用調整には農地のあらゆる情報を一元化することが重要であり、農地ナビで農地の利用状況が「可視化」が出来ることにより、受け手への働きかけが円滑に進められる。  
今後、村内では集落営農法人の設立が検討されており、農地の状況に適した作物の栽培を検討する際にも農地ナビを活用していきたい。  
（農業委員会事務局）

